

令和 2 年 度 徳 島 市 助 任 小 学 校 総 括 評 価 表

学校教育目標 自主性・社会性・創造性に富み、確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく生きる子どもの育成

- 重点目標
- I 自ら学び、考え、行動する子ども（知）
 - II 思いやりのある子ども（徳）
 - III たくましい子ども（体）
 - IV 生徒指導の充実
 - V 特別支援教育の推進・充実
 - VI 信頼される学校づくり

元気いっぱい
笑顔いっぱいに
やる気・本気・根気
をもって
ゆめにむかって
すすんでいく学校

すすんで
なかよく
みがきあい

重点課題	重点目標	自 己 評 価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題 今後の改善方策			
		評価指標と活動計画	評 価					
1 自ら学び、考え、行動する子ども（知） ・基礎的・基本的事項の徹底した指導 ・学ぶ意欲と学習習慣のさらなる定着 ・思考力、判断力、表現力等の向上	① 個に応じたきめ細かな指導に努める。 ・基礎、基本の徹底と個別指導の充実 ・少人数、TT 指導等の工夫・改善 ② 学ぶ楽しさを体験させ、学習意欲の高揚を図る。 ③ 学校・家庭における学習習慣の定着を図る。 ④ 全ての教科・領域で思考力・判断力・表現力等の向上をめざす。 ⑤ 読書習慣の確立を図る。 ⑥ 「外国語活動・外国語」の推進。	評価指標 ①自己評価項目の(個に応じたきめ細かな指導)でおおむねあてはまる以上が8.5%以上。 ②自己評価項目の(学習の意欲を高める)でおおむねあてはまる以上が8.5%以上。 ③自己評価項目の(学習習慣の定着を図る)でおおむねあてはまる以上が8.5%以上。 ④自己評価項目の(思考力・表現力・活用力等の育成)でおおむねあてはまる以上が8.5%以上。 ⑤自己評価項目の(読書習慣の確立を図る)でおおむねあてはまる以上が8.5%以上。 ⑥自己評価項目の(外国語教育の推進)でおおむねあてはまる以上が8.5%以上	評価指標の達成度 ① 98% (R1)→100% (R2) ----- ② 96% (R1)→100% (R2) ----- ③ 93% (R1)→100% (R2) ----- ④ 96% (R1)→100% (R2) ----- ⑤ 82% (R1)→88% (R2) ----- ⑥ 76% (R1)→76% (R2)	総合評価 (評定) B (所見) ⑥以外は評価指標を達成できた。コロナ禍で、活動が制限される中、児童の多様な興味・関心に対応できるよう努めた。外国語は、3年生以上の実施であるが、低学年における準備段階も考えていく必要がある。読書習慣の確立については、保護者と児童の間に認識の差が見られた。校内研修の着実な実施と学年団を中心とした研修により、授業力の向上(わかる授業づくり)に努めてきた。対話的な授業実践が難しく考えを深める取り組みが十分でなかった。学力の二極化が、低学年の段階から気になり始めた。今後は、ICTの活用について、教師自身の習熟が急務で、研修を重ねる必要がある。	自己評価は妥当である。 どの学年も学習への取り組み方が落ち着いている。先生方が、学習内容の基礎基本を大切にし、個に応じたきめ細やかな指導にあたる等、子どもの学習意欲を高めるよう工夫をしている。また、複数の教員で指導したり、ALT や英語ボランティアと連携した外国語の授業も効果的に行われている。今後も外国語の必要性を考えると外国語教育の一層の推進に期待する。新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策として、運動場の使用制限の反面、図書室の利用人数が増加していることは喜ばしく、更に読書習慣を身につけることにつながるよう市立図書館の電子図書も利用してはどうか。			
		活動計画 ①TT指導を充実することにより、よくわかる授業を実現し、補充・発展的な指導にも努める。 ②ペア学習やグループ学習を取り入れるとともに、できるだけ賞賛の場を設け、主体的な学習ができるように配慮する。 ③学力の実態把握より、課題を設定し、指導の改善を図る。 ④聞き方、話し方、調べ方等についての学習を展開し、具体的に指導する。 ⑤「朝の読書」「家庭読書」を通し、読書習慣の確立を図る。 ⑥ 専科教師や ALT、サポートティーチャーが協力し、楽しい授業づくりを行う。	活動計画の実施状況 ①TT指導教員と担任とが授業内容や方法について十分に検討し、効果を上げてきた。 ②コロナの影響でペア・グループ学習の実施が制限されたが、教材や指導法を工夫し、伝え合う学習を高めるように努めた。 ③学力調査結果や家庭学習の手引きなどを活用し、学校全体で統一して指導してきた。 ④文章を考えながら読んだり、読んで考えたことを書いたり・発表したりする場面を増やした。 ⑤改善が見られる(読書時間・量の増加)が、習慣の確立には至らず、二極化が見られる。 ⑥児童は、楽しく学習に取り組み、教科化への移行はスムーズであった。					
		2 思いやりのある子ども（徳） ・偏見や差別を許さない人権教育 ・自己実現を図る特別活動 ・自他の生き方を考え深める道徳教育	① 全ての領域で人権感覚を磨き人権尊重の精神を涵養する。 ② よりよい仲間づくりを通して思いやりの心や社会性を育成する。 ③ 児童会活動・学級活動等の内容を充実し、集団の一員としての自覚や自主性を育成する。 ④ 「特別の教科 道徳」の時間をはじめ、全ての教科・領域で道徳教育を展開し、よりよく生きていくための資質・能力を培う。	評価指標 ①自己評価項目(人権感覚を磨く)でおおむねあてはまる以上が平均で8.5%以上。 ②自己評価項目(集団の一員としての自覚や自主性の育成)でおおむねあてはまる以上が平均で8.5%以上。 ③自己評価項目(よりよい仲間づくり)でおおむねあてはまる以上が平均で8.5%以上。 ④自己評価項目(道徳的実践力の育成)でおおむねあてはまる以上が平均で8.5%以上		評価指標の達成度 ① 98% (R1)→100% (R2) ----- ② 93% (R1)→94% (R2) ----- ③ 98% (R1)→100% (R2) ----- ④ 94% (R1)→100% (R2)	総合評価 (評定) B (所見) 評価指標は達成できた。思いやりのある子どもが増えた。学校が楽しいと思う子どもも多い。新しい生活様式の導入で、人間関係の希薄化が懸念されたが、互いを認め合うこと、褒め合うことで、関係の深まりが見られた。偏見や誹謗中傷によって、相手を傷つけることがないように、今後も、より一層仲間づくりを通して、思いやりや社会性の育成に努めていく。	自己評価は妥当である。 引き続き、子どもたちの様子を細かく観察し、必要な指導を行う。また、関係機関との連携を深め、問題に迅速に対応していく。特に、いじめ等については、アンケートや聞き取りを着実に実施し、確認した事実には毅然とした態度で学校全体で取り組む。全教職員で人権問題についての研修に取り組み、自らの人権感覚を高めるよう努める。
				活動計画 ①普段の学校生活の中で常時指導や人権学習により、系統的・継続的に指導していく。 ----- ②元気タイムや外遊び、日々の生活指導の中で、よりよい人間関係の形成に配慮していく。 ----- ③児童会活動を盛んにしたり、学級活動を大切にしたりして自主性、主体性を高めていく。 ④道徳科の時間をはじめ全教科や領域の中で、道徳的な指導を工夫して行う。		活動計画の実施状況 ①「ひかり」等を活用して、各学年で系統的に人権尊重の精神を涵養し、次年度には授業公開をし、研究成果の発表を予定している。 ②元気タイムや心温まる行事(人権集会、6年生を送る会等)を実施し思いやりの心を育てている。 ③交流については制限されたが、子どもの主体性を重んじた活動は、できる限り実施できた。 ④きまりのある生活の実践や互いに信頼し仲良く助け合っていくこと等、指導の徹底を図っている。		

<p>3 たくましい子ども(体)</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさを大切にした体育科学習 体力、運動能力の向上 健康で安全な生活を営む力の育成 	<p>① 運動の楽しさや喜びを実感させ、生き生きと運動する意欲や能力を育成する。</p> <p>② 自分の心身に関心を持ち、体力向上の実践力を育成する。</p> <p>③ 学校給食を中心に、より望ましい食習慣(食育)の推進を図る。</p> <p>④ 健康教育を充実し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全(交通・生活)教育, 防災教育, 防犯教育 	<p>①自己評価項目(運動する意欲と能力の育成)でおおむねあてはまる以上が平均で85%以上。</p> <p>②自己評価項目(望ましい食育の推進を図る)でおおむねあてはまる以上が平均で85%以上。</p> <p>③自己評価項目(体力向上の実践力の育成)でおおむねあてはまる以上が平均で85%以上。</p> <p>④自己評価項目(保健安全教育の充実)でおおむねあてはまる以上が平均で85%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①運動の楽しさを高めるための学習内容・方法・指導を工夫する。</p> <p>②学習カードや各種検定表などを使用して、めあてを持った活動をさせる。</p> <p>③食育推進リーダー(栄養教諭)を校内組織に位置付け、指導を組織的に実践する。</p> <p>④健康教育を充実させ、健康で安全な生活を営む力を育成するよう努める。</p>	<p>① 97% (R1)→94% (R2)</p> <p>② 96% (R1)→100% (R2)</p> <p>③ 95% (R1)→97% (R2)</p> <p>④ 94% (R1)→100% (R2)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①「わたしたちの体育」の活用を図り、見通しを持ち自分のめあてを継続できるようにさせる。</p> <p>②休み時間には、制限はあるものの外遊びを推奨している。また、子どもの実態(運動能力, 泳力, 鉄棒等)を把握し指導に活かしている。</p> <p>③食育推進計画を作成し、それに基づいて実践している。残食量の減少が見られる。</p> <p>④様々な事態を想定した避難訓練を実施するとともに、危機管理マニュアルの更新をしている。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>評価指標は達成できた。今後も体育授業の充実や外遊びの奨励, 食習慣の確立を通して, 子どものたくましい体づくりを図っていききたい。</p> <p>少くくらい嫌なことがあっても, 切り替えて前向きに考えられる子どもが多くなった。給食時間の会話が減った分, 食事に集中できたのか, 残食量は減少した。</p> <p>マスクの着用は, 感染症予防には効果があったが, 運動量は制限された。</p>	<p>自己評価は妥当である。</p> <p>児童数が多いため, 運動場や体育館などの環境面が十分整備された状態ではなく健康づくり, 体力向上は学校だけでの取り組みでは改善が難しい。家庭との連携, 協力が大切である。</p> <p>コロナ禍の中, 三密を避ける形での運動会実施となったが, 子どもたちの演技ががよく見えた。</p>	<p>エビペンの使用や配慮の必要な児童の共通理解等, 学校給食アレルギー対応の研修の充実を図る。</p> <p>外部講師を招聘し, 専門家のアドバイスを取り入れた体育の授業や多人数と限られた環境を生かした体づくりを推進する。</p> <p>学校保健委員会で体力づくりや心身の健康保持, 食育の推進, 危機管理等について取り上げ, 家庭への啓発や地域との連携をすすめていく。</p>
<p>4 生徒指導の充実</p>	<p>① 基本的生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 早寝, 早起き, 朝ご飯, 徒歩通学, 外遊び あいさつと正しい言葉遣い 黙って心を込めた清掃活動 <p>② 自律心や他人との協調性の育成</p> <p>③ 校内生徒指導体制の確立と地域・家庭・関係諸機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ, 問題行動, 不登校の早期発見・対応 	<p>評価指標</p> <p>①自己評価項目(挨拶と正しい言葉遣い, 清掃活動)でおおむねあてはまる以上が平均で85%以上。</p> <p>②自己評価項目(自律心や他人との協調性の育成)でおおむねあてはまる以上が平均で85%以上。</p> <p>③自己評価項目(校内指導体制の確立と地域・家庭, 関係諸機関との連携)でおおむねあてはまる以上が平均で85%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①早寝, 早起き, 朝ご飯の推進。あいさつ・正しい言葉遣い・無言清掃の継続的指導を実施。</p> <p>②ボランティア活動等を通して, 人の役に立つ喜びを味わわせる。</p> <p>③校内生徒指導部会において問題解決のための具体的な協議を行うとともに, 家庭との連携を図る。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 100% (R1)→挨拶, 言葉遣い 100%, 清掃活動 97% (R2)</p> <p>② 98% (R1)→97% (R2)</p> <p>③ 97% (R1)→89% (R2)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①教職員や生活委員会であいさつ運動を実施しているが, 定着まではあと一步。</p> <p>②どの学年もトラブルはあるが, その都度学年に応じて指導し, 協調性の伸長が見られた。</p> <p>③組織的に対応することで, 問題がスムーズに共有できるようになってきた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>評価指標は達成できた。あいさつや言葉遣いについては十分とは言えず, さらに指導を続けていきたい。マスクの着用, 手洗い, うがい, 手指消毒の励行は徹底できた。基本的生活習慣の確立については, 家庭との連携が大切である。明日も学校に来たいと思える学校づくりをめざす。</p>	<p>自己評価は妥当である。</p> <p>基本的生活習慣の定着は, 学習面の充実に繋がると思われる。全教職員が同一歩調で指導にあたるように, 十分に意思統一を図って指導にあたって欲しい。</p> <p>全般的によく指導ができていて感じている。挨拶の指導は保護者の理解と協力が必要なため, 保護者への啓発に取り組んでほしい。</p> <p>いじめや問題行動, 不登校の芽を摘むように, 今後も引き続き子どもの思いに寄り添いながら, 組織的な対応をお願いしたい。</p>	<p>校内の指導体制を再確認し, 全教職員が歩調を合わせて, 積極的なあいさつや適切な言葉遣いが定着するような生徒指導に取り組んでいく。</p> <p>メールやHPを活用し, 地域の諸団体や保護者への情報提供と問題の未然防止に努める。</p>
<p>5 特別支援教育の推進・充実</p>	<p>① 校内支援体制のさらなる充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級, 通級指導教室の充実 指導, 支援のシステムづくり <p>② 一人ひとりのニーズに応じた指導・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別の教育的ニーズの把握 具体的な指導・支援の展開 <p>③ 家庭・地域・関係機関等との連携・協力</p> <ul style="list-style-type: none"> 就学前と中学校との連続性を重視 	<p>評価指標</p> <p>①自己評価項目(校内支援体制の整備充実)でおおむねあてはまる以上が平均で85%以上。</p> <p>②自己評価項目(一人一人のニーズに応じた指導)でおおむねあてはまる以上が平均で85%以上。</p> <p>③自己評価項目(家庭・地域・関係機関等との連携)でおおむねあてはまる以上が平均で85%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①校内支援体制の整備を進め, 特別支援教育を推進・充実する。</p> <p>②特別な支援が必要な子どもについて, 個に応じた支援をしていく。</p> <p>③就学前と中学校との連続性を重視する。校内研修に特別支援教育を位置付け, また関係機関とも連携して研修を深めていく。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 96% (R1)→89% (R2)</p> <p>② 96% (R1)→89% (R2)</p> <p>③ 91% (R1)→97% (R2)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①校内支援委員会やケース会議を定期的に開催し, 子どもの現状の共通理解に努めた。</p> <p>②年度当初に実態把握をし, 保護者と相談しながら支援をすすめている。</p> <p>③家庭に問題がある児童については, スクールカウンセラーや主任児童委員, 児童相談所等と連携をとって対応していく。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>評価指標は, 達成できた。特別支援教育については, 人手不足や教室不足が深刻になってきている。一人ひとりのニーズに応じたきめ細かい支援・指導は今後も継続していかなくてはならない。長期的な見通しをもった取り組みも必要である。</p>	<p>自己評価は妥当である。</p> <p>どの学級にも特性に応じた支援を必要とする子どもがいる。教職員配置や環境の充実を市へ要望し, 個々のニーズに合った支援を行ってほしい。</p> <p>また, 様々な個性に応じたよりよい指導ができるよう組織的に連携を図って欲しい。</p> <p>特に1年生は, 就学前の保育所や幼稚園と連携して指導にあたってほしい。</p>	<p>教育委員会やSC, SW等専門機関とのより一層の連携を図り, 専門家の意見を学校と家庭で共有できるよう努める。また, 特別支援教育コーディネーターと教職員の情報共有の場と方法を工夫する。</p> <p>児童一人一人について, どのような配慮が必要であるか, 具体的な支援のあり方をまとめ, 引き継いでいく。</p>
<p>6 信頼される学校づくり</p>	<p>① 安全・安心な学校への改善・努力「開かれた学校づくり」</p>	<p>評価指標</p> <p>①自己評価項目(安全・安心な学校への改善努力)でおおむねあてはまる以上が平均で85%以上。</p> <p>②自己評価項目(学校評価システムの拡充)でおお</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 95% (R1)→100% (R2)</p> <p>② 96% (R1)→97% (R2)</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p>	<p>自己評価は妥当である。</p> <p>エアコンの設置により</p>	<p>児童数の推移や老朽化の状況を十分検討しながら, 校舎の</p>

<p>② 学校評価システムの拡充 「説明責任と結果責任」</p> <p>③ 全教職員による協働体制の確立 「組織的対応」</p>	<p>むねあてはまる以上が平均で8.5%以上。</p> <p>③自己評価項目(協働体制の充実,働き方改革の推進)でおおむねあてはまる以上が平均で8.5%以上。</p> <p>活 動 計 画</p> <p>①登下校の安全対策について,積極的に努める。子どものけがの防止に努める。</p> <p>②子ども,保護者,地域の方々にアンケートを実施し,学校関係者評価委員会で評価結果を検討し,今後の改善方策に役立てる。</p> <p>③学年会,職員会,終礼等で共通理解を図る。トラブル等は,一人で抱え込まずに組織で対応する。</p>	<p>③ 9.2% (R1)→協働体制 8.8% 働き方改革 7.4% (R2)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①教員による交通立哨や下校パトロール,地域や保護者による登下校指導の実施。児童の健全育成に関する事業の推進。</p> <p>②アンケートから見える課題をつかむ。学校評議員会を実施し,学校教育に関する意見聴取をし,今後の学校運営に活かす。</p> <p>③職員会や終礼等で,文書や口頭による共通理解を徹底する。組織の活性化を図り,風通しのよい職場環境をつくる。</p>	<p>(所見)</p> <p>評価指標は,③以外ほぼ達成できた。</p> <p>開かれた学校の実現については,コロナの影響で十分にできたとは言えない。</p> <p>学校・保護者・地域および関係諸機関が相互に連携することで,子どもは安全・安心な学校生活を送ることができる。今後も,正しい情報公開に努め,説明責任を果たしていきたい。</p>	<p>暑さ対策ができ,子どもたちがよりよい環境で学校生活を送れることは喜ばしい。コロナ対策として,非接触型の体温計や手指消毒の器具等を設置する等,感染予防対策に取り組んでいる。トイレの改修については,引き続き努力してほしい。</p> <p>働き方改革として,留守番電話機能を利用しているが,保護者・地域との情報共有や連携が取りにくくならないように配慮してもらいたい。</p>	<p>改修,設備の更新については,要望を行っていく。トイレは,洋式化と合わせて,トイレの環境整備を要望している。</p> <p>継続して,登校時の交通立哨や下校パトロールに加え,青色パトロールカーの導入等,安心で安全な街づくりに保護者や地域と連携して取り組む。</p> <p>学校評価による保護者アンケート結果や学校関係者の意見を取り入れた教育活動を計画していく。</p>
--	---	--	---	---	--

「評定」の基準 A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった